



そらのとり

岩見沢聖十字幼稚園

園だよりNo. 13

2025年3月17日発行

3月の聖句
「光の子として歩みなさい」

ヨハネによる福音書
12:27

ホーム
ページも
ぜひ
見て
ください
ね

今月の聖書のみ言葉は、イエスの言葉として子どもたちを、あなたたちは光の子どもと呼んでいます。

暗い夜道でなく、明るい日差しの中を歩いて行きなさいとエールを送っています。

暗い夜道は危険と誘惑に溢れています。すべてが隠されて見えません。私たちが光の中を歩くと、すべてが白日の下に置かれます、こどもたちは何一つ隠すことなく、人目を気にせず、自分らしく、真っすぐに歩いて行きます。

3月は新しい世界へと旅立つ季節です。年長さんはキラキラと輝く一年生になります。眩しいくらい明るい光に包まれ、勇気100パーセントです。

特に卒園する子どもたち一人ひとりを覚えながら、神様のご加護を祈ります。

チャプレン・司祭 越山健蔵

たくましい年少さんの成長ぶり

今年さいごの年少さんのリズムの時間はワイルドな走り!跳ぶ!転がります!次々と流れるピアノ音楽、リズムが変わるたびにみき先生が「とんび!」「大わし!」「カエル!」「ギャロップ!」

こどもたちは、すぐ反応してヨロバたり、とびまわったり楽しそう!

それにしても「おどろきの!?!」と思うほど

ハードなのにみんな汗だくで大笑い!すごいなあ。

最近の子どもたちは、足の指が濡いたり、足の指をうまく動かせなかったり、地面をつかめない子が多そう。でも聖十字の子は、しっかり足を使って地面を歩いている。リズムの時間のさいごはいつもみき先生が、いい絵本をよんでくれます。

みき先生は、卒園生のお母さんで、高校で体育を教えています。聖十字ではもう18年もお世話になっているリズムの先生です。陸上協会でもずっと指導をされていて、プレーパークでも会えますよ。(プレーパークで子どもが挑戦しているのを、手伝わないでじっと見守る親御さんは、やっぱり聖十字の保護者だそうなの)

3月7日(金)お別れ会がありました。

さよなら年長さん、さよならPTA

どのクラスもすてきな歌、すてきなことばで、いーんしました。お花のチームにはお昼のオードブルを楽しくいただいて、さいごにそれぞれのクラスで手作りしたプレゼントを年長さんに渡し、グーと抱きあいました。

また、今年さいごとなったPTA役員さんの出しものもありました。みんなが大好きな「ねこのピート」の大きなお人形(手作り)が、聖十字幼稚園に探検にくるというお話で、見ているみんなが大喜びで参加。聖十字幼稚園への敷居が低く、愛が伝わって涙が止まりません。PTAの存在は本当に大きかったです。ありがとうございました。

やわらかい心

先日の全体礼拝のことです。チャプレンが来られなかったので、私が代わりに、幼稚園の頃大好きだった聖書の「善きサマリヤ人(びと)」のお話をさせていただきました。～ある旅人が山賊に襲われ血を流して苦しんでいました。そこに旅人と同じ民族の司祭さまや偉い人が通りかかったのに、見て見ぬふりをして通り過ぎていきました。しかし、普段みんなから虐げられていたサマリヤ人が、旅人に気づくとすぐに近寄り、声をかけ、持っていたぶどう酒とオリーブ油で傷を手当し布を巻いて止血し、自分の口バにのせて町へ行き、宿屋さんにお金を渡してその後をお願いし、再び旅に出たという話です。

みんな一生懸命聞いてくれたので、その時に使った絵をいつものように廊下に貼っていたところ、あるお友達が「その絵が怖くて、幼稚園に行きたくない」と感じていることが分かりました。改めて見ると、やわらかいタッチのマンガのような絵なのですが、顔に傷がいっぱいあって、血を流しています。昔、長男がテレビの戦隊番組の戦いを見て「こわい・・・」と椅子の陰に隠れたことを思い出しました。大人にとっては何でもない事が、子どもたちのやわらかい心や豊かな想像力には、鋭い刺激になるということを思い出して、刺激の強い世の中を当たり前にはいけない、と、とても反省しました。今日、やっとそのお友達に会えて、謝ることができました。にっこり笑って許してくれました。

保護者の皆さん、忙しい年度末を過ごされていると思います。幼稚園も今年は認定こども園になって初めての忙しい1年でした。そしてもうすぐ4月です。年長さんとそのご家族とのお別れは、本当にさみしいですが、無事に一回り大きくなった子どもたちの成長を共に喜び合えることに感謝しています。保護者の皆様、これまで先生たちの奮闘を支えてくださり、本当にありがとうございました。